

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2072800713		
法人名	社会福祉法人敬老園		
事業所名	グループホームとよしな敬老園		
所在地	長野県安曇野市豊科4755 (電話) 0263-71-1865		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年1月13日

【情報提供票より】 (平成20年12月 6日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	28,000円 ~ 32,000円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年12月 6日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	0	要介護 2	1
要介護 3	4	要介護 4	3
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 85.8 歳	最低 76 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・安曇野日赤病院	・笠原歯科医院
---------	----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

総合病院や警察署などの公共施設、大型店やレストランが並ぶ大通りから路地に入ると閑静な住宅地になる。門の奥の松の木や雑木に囲まれた2階建てのドッシリとした日本家屋が当ホームである。スーパーへの買い物や散歩に出掛けるには道路も整備されているので車椅子でも可能である。温泉権を持つ同法人の事業所から毎週温泉が届けられている。理学療法士の指導が受けられたり、管理栄養士の協力も得られるなど法人の協力体制は素晴らしく見事である。研修に関しても法人全体で取り組まれており職員の育成は熱心に行われている。緊急時には主治医から医療機関へと速やかな連携体制が構築されており安心である。入居者が自分らしくあるがままに暮し続けられるよう、職員が共に寄り添い、居心地の良い環境づくりに励んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の評価で課題となったプライバシーに関してはトイレのドアに使用中の有無の看板をつけるように工夫した。また楽しい食事に関しては料理の出来具合の話や入居者の声がけに職員が応えるなど笑いのある賑やかな食事風景であった。出来ることから改善への取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今年で4回目となる自己評価は全職員が手分けをして作成している。評価を行いながらサービスの見直しやふり返ることが出来た。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	定期的に開催している。会議ではホームの活動を報告し参加メンバーからの質問や情報交換が行われている。会議で話し合われたことはスタッフ会議の場で報告しサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	地域の方を第三者委員に選任し地域住民の立場からホームに対するご意見を頂いている。話しやすい雰囲気作りに努めながらどんな意見、苦情、要望にも前向きに取り組んでいる。出された意見、要望などは皆で話し合い、運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	老人会への参加や小学生との交流、大正琴のボランティアの訪問を受けたり、地域の行事に参加するなど住民と触れ合う機会を積極的についている。また、散歩や買い物に出掛けた時には住民の方と挨拶を交わし馴染みの関係づくりに努めるなど日常的に地域との関係を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を実践している。制度改正により始まった地域密着型サービスの意義とホームとしての役割などを確認しあっている。運営方針には地域との関係強化があげられている。	○	理念を検討するような機会があれば地域密着型サービスの役割を付け加えられることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議(月一回)や日々の申し送り、必要に応じて適宜開かれる話し合い等で、行ったサービスがホームの目指しているものであったのかどうか振り返り、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買物に出掛けたときには行き会う近隣の方と挨拶を交わし馴染みの関係づくりをしている。この12月には小学生がホームを訪問し、ツリーの飾りつけ、歌のプレゼント、お茶会等が予定されている。区長さん自ら回覧板を届けに来訪している。回覧板から参加できそうな行事を探し、皆で相談しながら出かけるなど住民との触れ合う機会を積極的に取り入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	提供しているサービスの見直しや振り返りをしながら全職員で自己評価に取り組んだ。前回の外部評価で見い出された課題についてはスタッフ会議で検討し改善に取り組んだ。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的開催し、活動報告や情報交換をしながら参加メンバーから率直な意見、役立つ意見を頂いている。会議で話し合われたことはスタッフ会議の場で報告しサービスの向上に活かしている。何でも気軽に話し合える会議にしたいと前向きに取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議の場のみで、協働関係にはやや欠ける点が感じられる。	○	市の担当者と気軽に相談できる関係作りに取り組まれることを望みます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月発行し行事や暮らしの様子は写真入りで報告している。担当者からの手紙による個別の報告は詳しい様子が分かると家族から喜ばれている。健康状態などに関しては電話で連絡している。金銭や介護計画等は家族の訪問時に確認印をお願いしている。職員の異動の報告は家族に文書でお知らせし、訪問時に報告したり紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域住民の中から選任されている第三者委員会が設置されている。要望や苦情などなんでも気軽に話せる関係作りに努めている。出された意見などは全職員に報告し、改善に取り組み、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員による支援を大切にしている。やむを得ず職員が交代する時には入居者に口頭で紹介している。しばらくの間はマンツーマンでトレーニングを行い、入居者に不安を感じさせないように配慮している。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修・継続研修を計画的に実施し人材育成に取り組んでいる。外部研修には交代で参加し、報告書の作成やスタッフ会議での報告等でお互いに共有を図っている。研修内容によっては更に理解を深めるための検討会議を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とのネットワークへの参加や交流はしていないが年一回開かれる市の福祉施設会議には参加し情報を得ている。	○	同業者との交流の機会を積極的に持たれることを望みます。交流を通して切磋琢磨し、サービスの質の向上や職員の資質向上に励まれることを期待します。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを受けられるように入居希望者には見学してもらっている。また職員が自宅を訪問し馴染みの関係作りにも努めている。家族とも十分に相談しながら入居を決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「入居者の皆さんは人生の先輩である」との考えを職員間で共有している。入居者から料理や季節のことば、知恵、工夫など教えてもらっている。入居者の生活歴、得意なこと等を把握しており、場面場面で入居者が活躍できるように声を掛けている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話やその日の状態から思いや意向の把握に努めている。意思表示が可能な入居者には声を掛けて確認することもあるが、困難な場合には家族からの情報や本人の表情などから検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の自立支援のための介護計画原案はケアマネージャーが作成した上で家族や職員と協議し、本人本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに家族、職員など関係者が集まり見直し（担当者会議）を行っている。ケアプラン実行表があり毎日実施状況を確認している。表には「気づき・今後の課題・反省」を記入するように工夫されており見直しに役立てられている。状態の変化や要望に変更があった時には見直しを行い、新たな介護計画を作成している。担当者会議には医師の出席もある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院や買い物などの外出には家族に代わり付き添っている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、医療機関となっている。入居者の病状に急変や緊急事態が生じた時には速やかに主治医、協力医療機関に相談できる体制が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しては家族の意向を尊重しながら医師等とこまめに話し合いを持ち方針を決めている。話し合いの内容は記録に残されており職員間で共有している。看取りについてはサービス開始時、契約者に説明している。看取り介護に関する指針も策定されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドやプライバシーを損ねない声かけ及び対応に取り組んでいる。個人情報の保護については充分理解しており、守秘義務に関しても職員教育がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな予定はあるが日々その人らしい生活を送れるように一人ひとりのペースやその時の状況を察し柔軟に支援している。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の食材や入居者の好物も取り入れられている。買い物や調理、片づけを入居者と一緒に行いながら「ありがとう」と一言感謝の言葉を伝えている。職員もテーブルにつき、おしゃべりや声かけをしながら共に食事をしている。笑顔や笑い声のある和やかな時間が流れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週5日お風呂を沸かし本人と相談しながら入浴している。美ヶ原の温泉権を持つ同法人の事業所から毎週2日温泉が届けられており入居者は交代で温泉を楽しんでいる。特に冬場は温まり方も違い好評である。2人介助により入浴する場合もあるが同法人の理学療法士の指導を受け安全で無理のない対応がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を参考にしながら得意なこと、出来そうなことを職員は共有している。場面場面で声を掛けて生き甲斐や気晴らしの支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日にはホーム周辺を散歩し季節を肌で感じてもらっている。歩行が困難な場合には車椅子で外気浴に出掛けている。入居者の希望に沿って、四季折々、お花見・紅葉狩りのドライブや買い物などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害について職員は認識している。入居者の状況や状態に応じて玄関を施錠することもあったが、現在は行動パターンの察知やチームプレーで鍵を掛けないケアを実践している。やむを得ない場合の施錠に関しては入居者、家族に説明し了解を得るようにしている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の指示のもと、避難訓練計画に沿って年2回入居者と一緒に行っている。消防署には連絡をしているが地域住民に協力の働きかけは行っていない。消火器の取り扱い方、通報の仕方、緊急時の連絡方法について職員は把握している。	○	地域住民の協力や消防署の指導が得られるように運営推進会議等で相談されることを望みます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が作成した栄養バランスの取れた献立表を活用している。咀嚼や嚥下機能が低下しても個別に合わせた調理が行われており、栄養摂取や水分が十分に確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室には大きな長方形のコタツ、広い画面のテレビがある。広く明るい居間は車椅子の入居者が多くても狭さを感じさせず居心地が良いようである。居間の先には庭があり、ガラス戸越しに四季を居ながらにして見たり感じる事が出来る。入居者や職員はおしゃべりや歌ったり、作業をするなどそれぞれ思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活とつながりのある馴染みの家具や家族の写真、時計や趣味で作った押し絵などが持ち込まれており、各入居者の個性を感じる居室作りがされている。		

※  は、重点項目。